

温故知新から温故創新へ

歴史を探り

未来に生きる町づくり

新得町教育委員会

教育長 山本 均



『教育の目標』の一つに、「伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛する…」とありますように、新得町を切り拓いた先人の苦勞を偲び、感謝することは、新得町を心から愛し、より良い町づくりのためにとても大切です。

このようなことを受け、新得町郷土研究会におかれましては、日頃から、貴重な資料（史料）を調査、点検、保存、収蔵、展示していただくとともに、町民にもわかりやすい資料集を作成されたり、小学生の郷土学習で説明されたり、そのご活躍に、心から感謝申し上げます。これも安倍会長はじめ歴代会長様のご指導と会員各位の真摯に学び、探究する姿勢のたまものであり、心から敬意を表します。

何回か皆様方と交流する中で、戦争体験された方（戦地に赴いた鉄道関係の方）が何人かおられ、貴重なお話を伺ったことが強く印象に残っています。まさに一級品の歴史であり、今後も語り継いでいただくことを願っています。

また、狩勝峠途中にある、かつて全道の橋や鳥居、石碑などに使われた花崗岩を産出した、通称“石切山”を目指したときは、皆さんのその健脚振りにも驚いたものです。

どうか、これからも新得町の黎明期からの歴史を探り、未来に生きる町づくりのために、郷土研究会の益々の発展を祈念しています。

終わりに、私事ではありますが、最後の勤務校が、旭川市で一番古い学校で、知新小学校と言いました。故（ふる）きを温（たず）ね、新しきを知るから拝借した校名ですが、先生方とは、知るだけでなく、新しい学校を創（つく）ろうということで、温故知新から温故創新を合言葉にしていました。

新得町の歴史を訪ね、郷土を愛することが、新得町の未来を輝かせ、新しい町創（つく）りにつながることを確信して、発刊のお祝いの言葉といたします。

